

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は2020年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

2. 練習場及び練習について

練習は、補助競技場および本競技場の許可された場所を使用すること。その際マーシャルの指示に従うこと。

補助競技場での投擲練習については、砲丸投のみ指定されたピットで行うことを認める。その他の投擲種目は危険防止のため禁止とする。

補助競技場での練習は、1～3レーンは周回 4～6レーンは直線(スタート) 7、8レーンはハードルとする。

3. 招集について

(1) 招集方法

(ア) 競技者は指定された時間までに1次点呼(○付けと腰ナンバーの受け取り)を行い、その後、各競技開始場所に直接集合する。

(イ) 1次点呼(○付け)を行わない、または、指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。

(ウ) 代理人による招集最終確認は原則として認めない。

(2) 1次点呼(○付け)場所は、競技場第1ゲート付近(100mスタート付近)に設ける。

(3) 1次点呼(○付け)終了時刻、及び現地集合時刻はプログラム記載の競技日程の通りとする。

4. ナンバーカードについて

(1) 全ての競技者はユニフォームの胸・背に確実に付ける。跳躍競技の競技者は、胸又は背のどちらかに付けるだけでよい。

(2) トラック競技に出場する競技者は、スタート地点で競技者係より腰ナンバーカードを受け取り、短パンの右腰やや後ろに付ける。(800mまではシール式、1500m以上は競技者係で貸し出す)

5. 競技の抽選及び番組編成について(レーン順、試技順)

(1) 800mより短いトラック競技の予選は競技運営上1～9レーンを使用する。レーン順・フィールド競技の試技順は、プログラムに記載した順による。

(2) トラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たとき(以下同タイム者という)は、下記の方法で決定する。

① 100m・200m・400m・100mH・110mH・400mH・4×100mR競技において次のラウンドへの進出者を決める場合、写真判定員主任が0.001秒単位の実時間を判定して出場者を判定する。それでも同成績者がありレーンが不足する場合は、同成績者または代理人によって抽選する。なお、アナウンス後15分を経過しても当該競技者あるいは代理人が大会総務に來なかった場合は、主催者が代行する。

② 800m以上の競技において、同タイム者は、次のラウンドに進むことができる。

6. 競技について

(1) 競技運営上、競技日程及びピット・短距離走の走路をバックストレートフィニッシュに変更することがある。その際、招集開始時刻の1時間前には放送を通じて連絡を行う。

(2) 短距離走のフィニッシュ後は、競技者の安全のために自分のレーン(曲走路)に沿って走り終わること。

(3) スタートの合図は英語で行い、各レースでの不正スタートをした競技者は1回で失格とする。

(4) リレーオーダー用紙は、予選・決勝とも第1組招集終了時間の1時間前までに競技者係に提出する。

(5) トラック競技では予選上位16位までの記録で決勝へ進出する種目もある。その際、9位から16位をB決勝として実施する。各種目B決勝を先に行いA決勝を後に行う。表彰はA決勝出場者からとする。

(6) 5000mの1組目は、男女同時スタートとする。

(7) 5000mWは、男女同時スタートとし、競技運営上、男子30分、女子35分以内に4600mを通過出来なかった者は、競技を中止させ、失格とする。

(8) 棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱の位置を所定の用紙に記載し、跳躍審判員に届け出る。

(9) フィールド内での投てきおよび跳躍の練習は、必ず審判員の指示に従う。競技中フィールド内での練習は絶対に行わないこと。

(10) 2種目同時に出場する競技者は、当該競技審判主任の判断により、フィールド競技について試技順を変更することができる。試技順を変更しても試技時間に間に合わなかった場合は、「パス扱い」となる。

(11) 競技結果や番組編成は掲示しない。大型映像およびアスリートランキングにて確認すること。

7. フィールド競技

- (1) 男子走幅跳については、予選を行う。予選通過記録は、下記の通りとする。
男子走幅跳 6 m80
- (2) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種 目	練習	1	2	3	4	5	
走高跳男子	1 m65	1 m70	1 m75	1 m80	1 m85	—	1 m85以降 3 cm刻み
走高跳女子	1 m35	1 m40	1 m45	1 m50	1 m55	—	1 m55以降 3 cm刻み
棒高跳男子	3 m00	3 m20	3 m40	3 m60	3 m80	4 m00	以降10cm刻み
棒高跳女子	2 m00	2 m20	2 m40	2 m60	2 m80	3 m00	以降10cm刻み

- (3) 第1位決定のバーの上げ下げは、走高跳で2 cm、棒高跳では5 cmとする。天候その他の条件によって、変更する場合は当該審判長が決定する。
- (4) 男子やり投については、予選を行う。予選通過記録は、下記の通りとする。
男子やり投 50m00

8. 競技場内への入退場について

- (1) 競技場への入退場は全て、競技役員の指示により行う。競技者以外はトラック・フィールドに立ち入ることはできない。
- (2) トラック競技における競技者は、第2ゲートから退場し、メインスタンド前は通らない。
*バックストレートフィニッシュの場合、ゴール後はそのままトラックを進み、第1ゲートより退場して、競技場玄関前を通り、第2ゲートより入場してスタート地点に戻る。(バックスタンドは通らない)
- (3) フィールド競技における競技者は、当該競技役員・マーシャルの指示に従い退場する。
- (4) 選手同士の密を避けるため、選手への付き添い等は行わない。

9. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は全て、主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールは個人所有のものを使用する。ポールについては、その競技開始前に跳躍場で跳躍審判員の検査を受け、許可されたものを使用できる。(やりも個人所有のものを認める。ただし、TICにて競技開始1時間前迄に検定を受けること。)
- (2) フィールド競技で、助走に使用するマーカーは主催者が用意する。使用し終わったら、競技者自身で取り外し、所定の場所に返納すること。(マーカーの数は既定の数を超えないこと。)
- (3) 競技で使用する滑り止め(炭酸マグネシウム等)は各自で用意すること。競技場では用意しない。

10. 競技用靴について

- (1) 競技場は全天候型舗装であり、スパイクピンの数は11本以内で、長さは9 mm以内とする。走高跳とやり投では12mm以内とする。
- (2) トラック種目で、厚底シューズ(ソール厚25mmを超える物)を使用する場合は、スタート前に出発係に申し出ること、申し出の無い場合には記録が公認されない場合がある。

11. 表彰について

- (1) 各種目の選手権獲得者には、賞状と選手権賞を授与する。
- (2) 各種目1位のみ表彰を行い、2位から8位までの入賞者には賞状を授与する。(エントランスホールより自ら持ち帰る)
- (3) 表彰式は、当該競技終了後、直ちに行う。

12. 応急処置について

大会期間中に競技場で発生した傷害や疾病は、主競技場内の医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。

13. コロナウイルス感染拡大の防止にあたり、次の項目を遵守すること。

- (1) 本競技会は、コロナウイルス感染拡大防止の観点より、無観客での開催とする。
- (2) 来場者は所定の体調管理チェックシートを大会総務まで提出すること。(チームの場合はまとめて提出)
(競技会一週間前から記入し、受付時に団体単位で提出する。用紙は札幌陸協HPよりダウンロードして使用)
- (3) 各団体代表者は所属選手の健康状態の把握に努め、異常がある場合は直ちに対応し、主催者に報告すること
※主催者の指定する待機場所を使用すること。
- (4) 体調がよくない場合には自主的に参加を見合わせる。
- (5) 同居家族や知人に感染が疑われる方がいる場合には自主的に参加を見合わせる。